

発売即、重版決定！ なぜワクチン接種後、1233人の人が亡くなったの？
医師が本気で教えるコロナ禍の正体！

『コロナのウソとワクチンの真実 不安なあなたに知ってほしい私たちの未来』

(著者)近藤誠 和田秀樹

(価格)1,540円(税込) <発売日>2021年10月5日 <出版元>ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役:唐津隆)は、新刊書籍『コロナのウソとワクチンの真実 不安なあなたに知ってほしい私たちの未来』を2021年10月5日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

本書では、ワクチンは本当に有効なのか？ 3度目のブースト接種(追加接種)は打つべきか？ 大切なコロナとワクチンの話から、日本人の健康観や病気への対処法の問題点そして、「結局、コロナってなんだったの？」という疑問に、二人の医師、近藤誠と和田秀樹が本気で答えていきます。「ワクチンを打たなかったらどうなる？」「新薬って効果ある？」「正しい老後のあり方とは？」等々、ウィズコロナ時代の日本人のための正しい医師、治療、クスリへの向き合い方、そして健康に生きるコツを、近藤誠、和田秀樹の両氏が徹底討論であぶり出していく一冊です。

日本での新型コロナウイルスのパンデミック。その国を挙げての騒がれ方に当初から疑いの目を向けていたガンとワクチンの第一人者、近藤誠氏と精神科医として引っ張りだこの和田秀樹氏が、騒動以来1年半にわたるファクト、報道、学術論文を徹底分析。ワクチンの欠陥性、ブレイクスルー感染、ブースター接種の真相、コロナで儲けた医師や大学病院、医療村の実態など、コロナ、ワクチンの意外なウソ・ホントを分かりやすく解説します。ウィズ、アフターでもぶれない真の健康を手に入れたい人にとって欠かせない1冊です。



【Dr.近藤's カルテ】

- ・メッセンジャーRNAのメカニズムと副作用死の不都合な真実
- ・ワクチンと副作用をめぐる厚労省の姑息な論理操作とは？
- ・ブレイクスルー感染、重症化と、深く関係する「メモリー免疫」の実態
- ・一度は必ずかかるのだから、患者よ、新型コロナとも闘うな！

【Dr.和田's カルテ】

- ・コロナ禍の裏でひそかに広がるアルコール依存症の恐怖
- ・子どもへのワクチン接種の責任を、小児科の医師たちは本当に取れるのか？
- ・新型コロナ対策をリードするのは、20年前に引退した評論家チーム
- ・「コロナなど恐れるな」ではなく、必要なのは「正しく恐れる」思考法
- ・自分がボケる前に知っておくべき、介護と福祉をめぐる真実と現実
- ・フレイルは「要介護まっしぐら」へのアラート

◆目次

- 第1章 ここまでわかった新型コロナとワクチンの正体
- 第2章 “コロナ騒ぎ”から本当に学ぶべき私たちの未来
- 第3章 コロナ禍で浮き彫りとなった日本の医療の決定的な問題点
- 第4章 コロナの先にある人生100年時代の正しい健康思考

著者：近藤誠

1948年、東京都生まれ。医師。「近藤誠がん研究所」所長。
73年、慶應義塾大学医学部卒業後、同医学部放射線科に入局、79~80年、米国へ留学。83年から、同放射線科講師を務める。
96年に刊行した『患者よ、がんと闘うな』(文藝春秋)で抗がん剤の副作用問題を初めて指摘し、医療の常識を変える。
2012年、第60回菊池寛賞を受賞。13年、東京・渋谷に「近藤誠がん研究所・セカンドオピニオン外来」を開設。14年、慶應義塾大学を定年退職。ミリオンセラーとなった『医者に殺されない47の心得』(アスコム)ほか、『新型コロナとワクチンのひみつ』(ビジネス社)、『新型コロナワクチン 副作用が出る人、出ない人』(小学館)、『がんの逆襲』(エクスナレッジ)、『最高の死に方』(宝島社)、『やってはいけない健康診断』(SB新書、和田秀樹氏共著)など著書多数。

和田秀樹

1960年、大阪府生まれ。東京大学医学部卒。精神科医。東京大学医学部附属病院精神神経科助手、
米国カール・メンninger精神医学学校国際フェロー、浴風会病院神経科医師を経て、現在、「和田秀樹こころと体のクリニック」院長、
国際医療福祉大学大学院教授、川崎幸病院精神科顧問。高齢者専門の精神科医として、30年以上にわたって、高齢者医療の現場に携わ
っている。『コロナの副作用!』(ビジネス社)、『70歳が老化の分かれ道』(詩想社)、『ストレスの9割は「脳の錯覚」』(青春出版社)、
『60代から心と体がラクになる生き方』(朝日新聞出版)、『老後は要領』(幻冬舎)など著書多数。

【お問い合わせ先】 株式会社ビジネス社 広報担当:松矢 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : matsuyapress@gmail.com 携帯: 09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。